

保育活動における関連性を捉える保育者の認識についての検討

－幼稚園年長児の保育活動に着目して－

太 田 裕 子 幼児教育科
中 村 里 美 附属大宝幼稚園
角 屋 友加里 附属大宝幼稚園

(2018年10月1日受理)

〔 要 約 〕

保育者が、保育活動におけるねらいや内容の関連、子ども達が行う活動間の関連といった関連性をどのように認識しているのかということが検討された。検討対象となった保育活動は、幼稚園年長児が取り組んだ、リレー、3周マラソン(園庭のグラウンドを3周走る活動)を主とする保育活動であり、検討にあたって年長児担任教諭及び観察者による保育実践記録が用いられた。

当該保育活動において、担任教諭が、各領域のねらいや内容が関連して含まれているという認識を持ち、その認識を基に、互いに関連のある内容に変化を加えるなどしながら保育活動を新たに立案、実践していることが示された。そのような保育活動に取り組んだ子ども達には、当初主なねらいとして挙げられた、走ることに関する、領域「健康」面の育ちのみならず、植物に触れる活動をも含む様々な活動に対する意欲の生起及び向上、友だちそれぞれの長所や自分の考えを言葉で伝え合うこと、共通の目標を友だちと共に達成するための共感性、協同性や思考力の生起及び向上といった、領域「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に含まれる育ちが認められた。

I. 問題と目的

平成29年の幼稚園教育要領¹⁾、保育所保育指針²⁾、幼保連携型認定こども園教育・保育要領³⁾の改訂・改定に伴い、幼児教育を通して子どもが身に付けようとする事柄の中核が「資質・能力」とされ、「知識・技能の基礎、思考力」、「判断力・表現力の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」という「育みたい資質・能力」が記載された。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化され、「健康な心と体」、「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」、「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」という10の姿として示され、新たな概念や文言が加えられることとなった。それらが肝要であることは自明のことだが、改訂・改定以前から同様に保育において重視されているものにもさまざまなものがある。

例えば、幼児の発達の側面から、保育の「ねらい」と「内容」を、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」、感性と表現に関する領域「表現」と

してまとめた「領域」や「総合的な指導」も、その中に含まれるものである。

「領域」は、小学校以降の学校における教科とは異なるものであり、「領域別に教育課程を編成したり、特定の活動と結び付けて指導するものではなく、総合的な指導を通して子どもたちが経験した内容を保育者やそのほかの人々が理解する視点」⁴⁾でもある。そして保育は、諸活動を通して、幼児一人ひとりが様々な体験を積み重ねる中で、5つの領域が相互に関連を持ちながら、幼児の主体的な活動が展開されていくように行うものだといえる。そのことについては、平成20年改訂及び平成29年改訂のいずれの幼稚園教育要領においても、「各領域に示すねらいは、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。」^{1), 5)}と記述されており、各領域のねらい、内容が相互に関連しているという認識を持つことは、保育実践にあたって不可欠なものであることが分かる。そして、そのような視点と共に、「週、日などの短期の指導計画については、幼児

の生活のリズムに配慮し、幼児の意識や興味の連続性のある活動が相互に関連して幼稚園生活の自然な流れの中に組み込まれるようにすること」^{1), 5)}、「心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること」^{1), 5)}が、指導計画の作成上の留意事項として挙げられていることから、幼稚園等で子どもが行う活動間の関連を認識し、関連を持たせた活動を計画、実践することも必要であることが分かる。

保育には、実施する活動の内容や順番を定めた教科書は存在せず、子どもの実態、発達に沿って指導計画を立てて保育を行っていくことが保育の特性であり、子どもの活動を決定する自由度が高い分だけ保育者の力量が問われることにもなる。従って、どのような活動をどのようなタイミングで計画し、実施していくかということを考える際に、前述のように、子どもの活動における各領域のねらいや内容の関連、子どもが行う活動間の関連といった関連性をいかに認識し、その認識に基づいて保育を実践することは、保育の質を左右するといっても過言ではないものといえよう。

そこで本研究では、幼稚園年長児の保育活動を取り上げ、保育者が、保育活動における関連性をどのように認識しているのか、その認識を基に保育活動がどのように立案、実践されるのか、また、それらの保育活動に取り組む子どもの姿にはどのような育ちが見られるのかということを、検討していきたい。

II. 方法

1. 対象児

羽陽学園短期大学附属大宝幼稚園 年長すずらん組15名、年長ききょう組15名、年長児合計30名

2. 検討対象とした活動

検討対象とした保育活動は、主に「リレー」、「3周マラソン」である(写真1)。リレー、3周マラソンともに、当該園の園庭にあるグラウンド(1周の距離は55メートル)を使用して実施された。リレーは、平成30年9月9日に実施された運動会の競技種目となっている。グラウンドを一人1周して次の走者にバトンを渡し、運動会当日には年長組男女別2クラスの対抗形式で実施されるものである。対象児は、運動会で実施するリレーに向けての練習として、主に設定保育時にリレーを行った。3周マラソンは、対象児がグラウンドを3周走る活動であり、設定保育時と自由遊び時に実施された。9月の運動会で実施されるリレーに向けて、リレーの練習、リレーに関連する活動として実施された3周マラソンのいずれについても、4月から開始された。

3. 検討対象とした記録

対象児が在籍する年長児2クラスの各担任教諭は、前週の子どもの姿を基にしたねらい、援助の要点、対象児が経験する活動、対象児の姿、対象児の姿を基にしての考察等を、1週間ごとに週案週録としてまとめている。また、夏休み前には、園内研修活動報告として1学期の保育活動をまとめて記録していることから、それらの記録より、本研究において検討対象とする活動に関連する記録を抽出する。また、各担任教諭以外の観察者が、対象児の設定保育、自由保育の時間に行った観察の記録も併せて用い、当該活動に取り組む対象児の姿、対象児の姿を踏まえて担任教諭が保育活動を立案、実践していく経緯を把握しながら、担任教諭が保育活動における関連性をどのように認識し、その認識を基に保育活動がどのように立案、実践されるのか、また、それらの保育活動に取り組む子どもの姿にはどのような育ちが見られるのかということを、検討していく。

III. 結果と考察

【4月8日(日)～13日(金)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：3周マラソン(4月11日、12日、13日)

①羽黒山登山や運動会に向け、天気の良い日は3周マラソンを続けていきたい。

初日は3周走ると皆しゃがみこんでいたが、2日目、3日目になるにつれて②体力もついてきて、しゃがみこまなくても大丈夫になってきた。③順位を伝え④昨日より早く走れるようにしている。今度は、⑤速く走れるコツを伝え合ったり、走るフォームについて気づいたりできるようにしていきたい。バトンを使ったリレーも行っていき、⑤スムーズにバトンのやり取りができるようにしていきたい。



写真1 3周マラソンの様子

【4月16日(月)～20日(金)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：3周マラソン（4月17日）

⑥3周マラソンでの振り返りで、「どのような気持ちで走ったか」等の、走ってみての感想を、手を挙げて発言した。⑦「1位になりたい気持ちで走った。」「手を大きく振って走ろうと思いました。」等の感想が挙げられた。

実施した活動：リレー（4月20日）
当番グループで対抗する。

初リレーでは色々な課題も見つかった。バトンを渡す角度、(園庭の)円の線を走る、手の振り方等について個々に応じて声を掛けていきたい。⑧長距離が得意な子、短距離が得意な子が分かった。その後繰り返し挑戦する子もいた。意欲的なところは皆へ紹介し、⑨クラス全体の意欲が高まるようにしていきたい。

【5月14日(月)～18日(金)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：3周マラソン（5月16日）
⑩様々なグループ、学年混合背の順で走る。

マラソンは、⑩学年混合の背の順にしたのでまた順位も変わり意欲も高まった。次回は順位別、グループ別等色々な走り方を楽しみたい。⑪速さだけでなく周数も記録できるように、⑫「やってみよう！かーど」に記録できるようにしていきたい。⑬速さと持久力両方が高まっていければと思う。

⑬自分で考え判断し、⑭3周4周5周に挑戦というのもやってみたい。

羽黒山登山や運動会に向けて、体を動かすことを楽しんだり体力を増強したりすることを主なねらい(①)として、3周マラソンが活動に取り入れられた。3周マラソンを実施するにつれて対象児が「しゃがみこまなくても大丈夫」になってきたこと(②)から、「昨日より速く走れるように」というねらい(④)を加え、活動に、対象児が順位を意識するような言葉掛けをする配慮(③)が施されることとなった。また、速く走るためのフォームやバトンのスムーズなやり取り等の、リレーで速く走るためのコツの会得も、ねらいに加えられてきた(⑤)ことが分かる。そのようなねらいに基づく保育者の援助により、また、自分の思いを言葉で表現する振り返りを行う(⑥)ことで、対象児から、「1位になりたい気持ちで」、「手を大きく振って」といった、速く走るために精神面、技術面で求められる内容が自分の言葉で表されるようになった(⑦)。

走る活動に取り組む中で、「長距離が得意な子」、「短距離が得意な子」、「繰り返し挑戦する子」とそれぞれに長所のある対象児の姿が把握(⑧)されることとなった。対象児の姿を把握したことに基づき、速く走ること等だけでなく、それぞれの長所を生かすことで活動に取り組む意欲を向上させることがねらいに加えられた(⑨)ことが分かる。そして、そのねらいが加わったことに伴い、順位が固定しないよう、学年混合の背の順で走る、というように3周マラソンを継続しながら一緒に走るグループに変化を与え、活動に取り組む意欲が高まるよう、保育内容を発展させている(⑩)。また、走る速さだけでなく、走る距離の長さにも着目し、対象児それぞれの長所を生かす視点が加わったこと(⑪)で、様々な活動への興味関心や意欲を育むことにもねらいが広がり、「やってみよう！かーど」を作成、導入した保育を計画、実践する(⑫)ことにもつながったことが窺われる(写真2)。

また、対象児の走る速さだけでなく持久力の向上もねらいとして立て(⑬)、それと共に、自分でどこまで取り組もうと思うかを判断し、挑戦する意欲の向上もねらいとして立て、双方のねらいに基づいて、「3周4周5周に挑戦」という発展した具体的な保育活動を新たに構想している(⑭)。

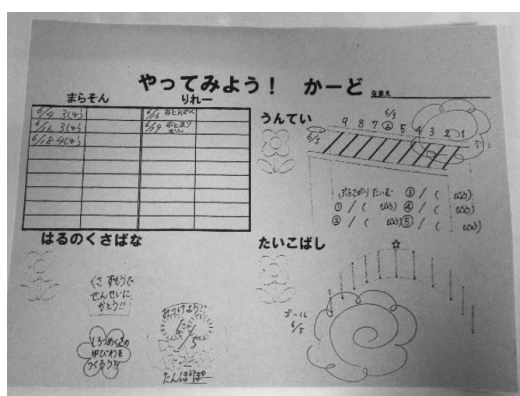


写真2 「やってみよう！かーど」

「やってみよう！かーど」には、⑪マラソンの実施とその周数、リレーの実施とグループ分けの種類、うんていの実施と進捗、ぶら下がり可能な秒数、春の草花に関する活動(たんぽぽ探し、草相撲、しろつめくさの指輪作り)の実施、たいこばしの実施等の項目が設けられ、対象児が挑戦したことが記録される。

【5月28日(月)～6月1日(金)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：3周マラソン（5月31日）

「やってみよう！かーど」を子どもたちと行ってみた。初めてということで今回は全員でうんていや草花探しを行った。全員でやってみると、⑮今まで自分ではやったことがなかった子どももおり、こちらから機会を作る大切さを感じた。今週、初めてやってみて、高さの

怖さや⑩自分が出来ないところを一人ひとりが知った。来週からは、できないことを知ったところからのチャレンジになる。ここから⑪挑戦することの大切さを伝えながら、1人ひとりに関わり、できないことにもチャレンジできるようにしていきたい。自分の記録に挑戦する気持ちで「今日は〇〇をするぞ」という目標が外遊びや登園する目的となっていって素敵だと思う。本格的に暑くなる夏まで短期間で重点的にかかわっていき、二学期夏が終えてやってみるとどこまでできるか、「自分の成長を記録でみえるようにしたい」と思う。

【6月4日(月)～6月8日(金)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：3周マラソン（6月4日）

⑩朝の会で全園児の前でマラソンを走る。

朝の会でマラソンを取り上げていただき、年長組の子どもたちも緊張感を持ったり応援を受けたりし、いつもと違う雰囲気で行えて良い刺激となった。⑪「ドキドキしたけど、走るのが気持ちよかったです。」「応援されて嬉しかったです。」等の感想が挙がった。転んでも泣かずに走り続けて走る姿に成長を感じた。⑫来週はお家の人の前で走るのを意欲をも高め当日を迎えたい。またリレーも全園児の前で走る経験をし、緊張していてもバトンをしっかり和渡してつなぐ意識を持たせていきたい。小さい子が走る姿を見ることもとても新鮮だった。

「やってみよう！かーど」を用いた活動に関連する⑬「いろいろな友達に目を向けられるようにし、友だち関係を広げ、仲間意識が持てるようにする。」というねらいを、週のねらいとして新たに加えた。

「やってみよう！かーど」が始まり、⑭遊具に挑戦したり草花を見つけて友だちと一緒に教えに来たりしている。⑮「〇〇ちゃん、うんてい全部できるの？すごい！」と友だちの得意なところや素敵なところを知るきっかけとなっている。⑯たいこばしも保育者の援助でクリアする子が増えてきている。

「やってみよう！かーど」の取り組みでは、うんていにぶら下がるタイムを計ってみた。初日は、A君が1分以上ぶら下がり、Bさんのタイムから勝った。A君はうんていだと2本目まで進むことも難しいが、最後まで進むことができるBさんよりもぶら下がっていられた。⑰このことを帰りの会で全体へ伝えたと、1人ひとりの得意なところが違うという話になった。また、A君は全体で紹介されて、とても嬉しそうだった。

様々な活動への興味関心や意欲を育むことをねらいとする(⑱)「やってみよう！かーど」を導入した保育を実施したことにより、「今までやったことなかった子もおり」、「遊具に挑戦したり」「たいこばしも保育者の援助でクリアする子が増えてきている」といった様子が見られるようになり(⑲⑳㉑)、対象児の経験が自分で体験したことがなかったことにも広がり、出来ないことにも挑戦する意欲が生じていることが窺われる。さらに、対象児の様子を踏まえて「いろいろな友達に目を向けられるようにし、友だち関係を広げ、仲間意識が持てるようにする。」という新たなねらいも含まれることとなっている(㉒)。そのねら

いを踏まえて捉えられた対象児の姿には、「やってみよう！かーど」の取り組みを通して、対象児が自分の得意な所や苦手な所を知り、それと同時に友だちにはそれぞれに異なる得意な所、長所があることに気づくことができるようになってきているという育ちが認められる(⑲⑳)。さらに、気づいた友だちの長所を言葉で伝えることで、その友達の長所を対象児同士で共有したり、長所を認められた対象児の自信に繋がったりすることを体験している様子も見られる(㉓)。

また、リレー、3周マラソンに関しては、走ることの気持ち良さを感じたり、転んでも泣かずに走り続けたりする姿が見られるようになり、走ることへの意欲の向上、ひとつのことをやり遂げる意思が感じられるようになった(㉔)。朝の会で3周マラソンを行い、全園児の前で走る経験をするところからも、緊張してもバトンを持ち、意欲的に走ることに繋がりたいと保育者が考えている(㉕)ことが示唆される。

【6月11日(月)～6月16日(土)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：リレー（6月14日）

3周マラソン、リレー（6月16日）

⑯保護者参観日で3周マラソンを見せ、親子混合リレーを行う。

参観日では、3周マラソン・リレーと春から取り組んできたことをお家の人達に見せる機会となり、子どもたちの頑張りを認めていただいた1日となった。⑰親もリレーに参加することで子どもたちも刺激となり楽しんでいった。バトンをつなぐ楽しさを感じ、運動会まで様々な方法で行ってみたい。

リレーの練習をしているときに、Cさんが転んでしまった。Cさんは足が速くて、みんなにとって無敵な存在だったが、Cさんも転ぶということを見て、周りの子が驚いていた。⑱全体で話したときに、Dさんが「Cちゃんかっこよかった」とほめてくれた。そののち、自由時間にE君が「Cちゃん頑張ったね」と声をかけてくれていた。Cさんはずっと涙をこらえていた。Cさんの姿を見て、負けてしまったことを話す子はだれもいなかった。Cさんのおかげで、勝ち負けよりも、頑張ることが大切だということを学ぶことができた日となった。

【6月18日(月)～6月22日(金)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：3周マラソン（6月18日）

⑲選択制でマラソンをする。(「3周4周5周に挑戦」)

リレー（6月18日、22日）

⑳お泊り会のグループでリレーを行う。

㉑振り返りで、友達の走り方のかっこいい所や頑張っている姿が挙がるようになる。

マラソンでは、3周にも慣れてきたので、自分の挑戦してみたい、3周4周5周に分かれて走ってみた。(すずらん組15名のうち)㉒3周と5周が半々位、4周が4人でやる気がある子が多くいてびっくりした。5周になるといつものペース配分が変わり後半スピードがゆっくり

りになっていた。しかし、今回はゆっくり4周5周に挑戦してみたい人と伝えていたので、最後まで走りきることを目標としていた。

お泊り会のグループでリレーも行った。③自分達で走る順番も相談して行った。

【6月25日(月)～6月30日(土)の活動に関する記録】

③「グループの友だちと力を合わせて活動する楽しさを感じる。」というねらいを、週のねらいとして新たに加えた。

それまでのリレーに変化が加わった親子混合リレーを実施することで、対象児はリレーで走ることに楽しさを更に感じたことが示された(②⑦)。また、リレーの練習を重ねる中で、友だちのそれぞれの得意なところに加え頑張っている姿に気づき、クラス全体で話したり活動の振り返りをする中で、それらのことを言葉で表現し、友達を褒めたり励ましたりすることができるようになってきている様子が見られる(②③)。

対象児の走る速さと持久力の向上、意欲の向上をねらって構想した(③)「3周4周5周に挑戦」を実践したところ、対象児それぞれが自分で判断し、3周より多い周数を走ることに挑戦する対象児も多い結果となった(③)。一緒に走るメンバーを変える等の変化を加えながらの3周マラソンやリレーの体験を重ねることで感じるようになったであろう、走ることに楽しさや気持ち良さ、そして「やってみよう!かーど」での経験による、未体験のことにも挑戦しようとする意欲が、対象児の周数の選択の背景になっていることが考えられる。

また、友だちそれぞれの長所や頑張る姿に着眼しこれらの良さを伝え合うことができるようになっており、走ることに気持ち良さや意欲も高まってきている対象児には、自分達で走る順番も相談して行う姿も見られるようになった(③)。そのような対象児の発達を踏まえ、友だちと力を合わせて活動する楽しさを感じることを、ねらいとして加えられている(④)。

【7月9日(月)～7月14日(土)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：リレー(7月11日)

③新グループ(10日に決めた)で室内リレーを行う。

③グループの友だちと話し合いながら走る順番や2回走る人を決めた。1番目に走る人は合図をよく聞ける人、最後の人は遅く来ても頑張って走れる人、速い人、気持ちの強い人等、子ども達から拳がったことを頭に入れながら順番を話し合っていた。次回は走るのが苦手な人や得意な人をどこに入れるかも考えていきたい。室内は外と違ってスピードを出すとコーナーで転びそうになったり、2グループを保育者が一人で出さないといけないのでじっくりと走る様子が見れなかったりと課題が見つかった。

【7月17日(火)～7月20日(金)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：リレー(7月18日、19日)
新しいグループでリレーを行う。

③リレー前の話し合いでは、一人ひとり苦手なこと、得意なことは違っているので、お互いが頑張り、認め合うことでカバーし、様々な活動にこれから取り組んで欲しいという願いで行った。気持ちの面の成長はなかなか目に見えないものだが、保育者が働きかけたり、友達同士で気づき合ったりすることで、心を揺さぶることが少しできたのではないと思う。Fさんが皆から認められて、自信を得た1日となった。

【9月3日(月)～9月9日(日)の活動に関する担任教諭の記録】

実施した活動：リレー(9月3日～7日)
運動会に向けた活動としてリレーを走る。(写真3)
リレー(9月9日)
運動会で、リレーを走る。

③リレーでは回数をこなしていくにつれて、子ども同士でハイタッチをして喜ぶ姿が見られたり、走るのが苦手な子へ「手はこんな風に振るといいよ。」と実際の手をとって行ったり、と自らの思いや考えで行動するようになっていった。いろいろなことを想定して「もし～になっても」「～すると良い」と子どもたちも考えた。技術面での個別指導や全体での気持ちの面での対応の仕方、伝えられるものはすべて伝え、子どもたちの中で分かっていた。

運動会に向けた活動では、リレーを毎日練習していく中で、③走る楽しさや、リレーの達成感を一人ひとり味わい、意気込みも強くなっていった。子ども達も、自分が走る楽しさを感じるころから、友達との関わりにつながっていった。自分の活躍だけでなく、友達のすごい所を見つけられるようになり、言葉にして伝えられるようになったことで、励ましたり、褒め合ったりする姿が見られるようになった。更に、その中には、走ることが苦手な友だちに対しての励ましもあった。今まで同じクラスで過ごしてきた、友達の得意なことだけでなく、苦手なことも分かるからこそ、遅いことを責めるのではなく励ますことにつながったのだと思い、嬉しく思った。その他にも、走るコツを毎日お家の人に聞いてきた子、負けた悔しさを園ではかくして、バスを降りてから玄関で大泣きした子、転んだ友だちをすぐに気にかけてくれた子、走る順番や作戦を考えてくれた子、等一人ひとりの運動会に向けた物語ができた。



写真3 リレーの様子



写真4 リレーの前の話し合いの様子 写真5 リレーの後の振り返りの様子

一人ひとりにそれぞれの得意なこと、苦手なことがあることを知り、その上で友だちの良さを認め合ったり言葉で表現して伝えたりすることができるようになった対象児の育ちを踏まえ、「グループの友だちと力を合わせて活動する楽しさを感じる。」というねらいのもと、保育者が、共通の目標に向かって協力することもできるようになるよう、話し合いの機会を設けていることが分かる(37)(写真4,5)。そのようなねらいに基づいて行われた話し合い、リレーの練習をはじめとする様々な活動に取り組み、対象児は、共通の目標を達成するために考え、意見を出し合ったり助言をしたり励ましたりすることもできるようになったことが示された(36)(38)(39)。

【9月12日(水)の活動に関する観察者の記録】

C：対象児 O：観察者

実施した活動：うんてい、リレー（9月12日）
設定保育前に自由遊びとして行う。

うんていをしている3名の女児。

C：見て見て！最後まで行けるんだよ！ほら。（うんていを観察者に渡ってみせる）

O：すごいねえ。ほんとに最後まで渡れるね。

C：でしょ？

傍で見ていた他の女児も「私もできるよ」と言って、うんていを渡ってみせる。

C：高い方から（低い方に向かう方向に）しか出来ないけど。でも、出来る！あと、ぶら下がるの得意！（ゆっくり30秒程数えながらぶら下がっている。）

C：④Gちゃんは、ぶら下がるのすごいんだよ。

C：ねー。

O：たくさん練習したの？

C：うん！なんだっけ、④あれ…カードがあったんだよ。ずっと前だけどね。それで、あれ（遊具「たいこばし」を指さす）もやったの。それで出来るようになったんだよ。あれ、最初怖かったんだよー。

C：ねー。（3人で声を合わせる）

複数の男児が園庭を走り始める。全速力で何週も走っている。

O：（自由遊びの後、設定保育の時間に園を訪れる保護者の前でリレーをすることになっていたので）そんなに走って、本番で走るパワーが足りなくならない？大丈夫？

C：大丈夫だよ！今までいっぱい走ったもん。

C：ここ（園庭）、ぐるぐるぐるぐる何回も回って走ったんだよ！

C：リレーも何回もやったしね。

C：じゃあ、リレーしよう！

リレーをしようとの男児の声掛けに他の男児が賛同し、集まる。

C：グループ分けするから並ぼう。

C：何順？

C：とにかく並んで！（一列に並んだ男児を2つのグループに分ける）

O：どうやって分けているの？

C：④速い人と遅い人（の双方がひとつのグループに入るように）、分けるの。（ひとつのグループに）速い人ばかりだとダメでしょ。

2つのグループに分かれた後、グループ毎に走る順番を相談する。

C：④「はじめは、Hくん。速いから。」

C：④「向こう（のグループ）の2番目は誰だ？それ見て決めよう」

C：④「最後まで、速い人だよ。」



写真6 自由遊びの時間に自発的に走る様子



写真7 一列に並んでからリレーのグループ分けをする様子

写真8 リレーの走順を相談する様子

【9月12日(水)の活動に関する観察者の記録より】

C：対象児 T：保育者

実施した活動：リレーをする（運動会が室内開催だったため、リレーを園庭で保護者の前でを行う）前に、保育室で保育者から対象児に話をする。（9月12日）

T：今日は、お家の人の前で走るリレー、最後かもしれません。どんな気持ちで走りますか？

C：頑張る！

C：いっぱい頑張る！

T：みんな春からずーっとマラソンしたりリレーしたりしてきました。走るのはどうですか？
 C：④速くなった。
 C：④得意になった。
 C：④楽しい。
 T：ね、今までは疲れた～なんて思って走ってた人もいましたけど、走るの楽しいとか気持ちいいとかって走れるようになりましたね。
 C：うん！
 T：速く走るためのコツ、ありました。どんなふうに走りますか？
 C：④線の近く（を）走る。
 T：線、しっかり見ましょう。あと、前にお友達いて、越すときは、外側から越しましょう。できる？内側からだどぶつかるとあるの。
 C：はい。
 T：手とか足どうだった？
 C：④振る、おおきく振る！
 T：I君もJ君も、手の振り方、足の幅もおおきくなりましたね。前前前前ってね。
 目は？
 C：④前！
 T：後ろが気になっても見ないんだよね、前を見るんだよね。あと手は？バトンはどうなふうにする？
 C：④はい！ 手のひらに渡す。
 T：手を真っすぐして渡してあげると取りやすかったね。
 T：バトンはみんなで頑張る気持ちをつなぐもので、しっかり持って渡せますか？
 C：はい！
 T：今日の作戦、どうしますか？
 C：④頑張る気持ち。待ってる人、応援する。バトンをしっかり渡す、声を大きく、お名前を呼ぶ。
 T：Kちゃんががんばれ、とか、言ってあげると聞こえますね。
 バトン渡すときも、走ってくるとどっちなかって迷うときあるので、名前を呼んであげると、Lちゃんこっちだよ、とかってね。声出すと、お友達すっつと入れるからね。
 T：今日はお家の人や、小さい組のお友達も応援してくれますからね、いつもより？
 C：④強く走れる！

とが分かる(④)(写真8)。さらに、リレーを実施する前の話し合いの様子から、対象児がリレーを楽しみ、自信を持って取り組めるようになったこと、速く走るためのコツを会得し意欲を持って走ろうとしていることが窺われる(④⑤)。

IV. 総合考察

保育者及び観察者による保育実践記録を基に考えられることを、以下に述べる。

年長児を対象とした3周マラソン、リレーでは、同じ活動を同じ条件で繰り返すのではなく、一緒に走るメンバーを変えたり(⑩③③⑤)、異年齢児や保護者の前で行ったり(⑬②⑥)、3周マラソンで走る周数を3周4周5周の何れかから選択して走る形式にしたり(⑲)という条件の変化を加えながら活動を継続させている。それらの活動において、当初は体を動かすことを楽しみながら体力を増強したり速く走るためのコツを会得したりできるようになるということが3周マラソン、リレー活動における主なねらいであり(①④⑤⑬)、これらのことは、領域「健康」のねらい「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。」、内容「いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。」、「進んで戸外で遊ぶ。」、「様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。」に対応するものであったと考えられる。その後、一緒に走るメンバーを変える等の変化をつけながら活動を継続させる中で、走ることへの意欲を高めること(⑨)、更には自分が未体験であることやうまくできないと思っていることに取り組む意欲を高めること(⑬⑰)もねらいに加えられていることから、3周マラソン、リレーという各活動の中に、ねらいはひとつではなく関連するねらいが複数存在することを保育者が認識しているということが示されている。そして、その認識を基に新たに加えた、前述のねらい及び「いろいろな友達に目を向けられるようにし、友だち関係を広げ、仲間意識が持てるようにする。」というねらい(⑳)を異なる内容の活動体験を重ねることで達成することも意図し、3周マラソンやリレーだけでなく、持久力の向上、うんていやたいこばし、植物に関わる活動にも関心を持ち挑戦する「やってみよう！かーど」を導入した活動が実施された(⑪⑫)。これらのことは、3周マラソン、リレーという活動の中に、前述のような領域「健康」に関するねらいや内容だけでなく、領域「人間関係」のねらい「幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。」、内容「自分で考え、自分で行動する。」、「いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。」、「友達のよさに気づき、一緒

意見や感想を出すことを求められているわけではない場面においても、友だちの得意なところを言葉で表し、伝えることができている(④)。「やってみよう！かーど」での取り組みが、対象児にとっては「ずっと前」と感じられる程の時間の経過があった後においても、意欲を出して挑戦することでできるようになることへの達成感につながっていることが示されている(④)。

また、自発的に走り、リレーをする対象児は、楽しみながら体を動かしている(写真6)。リレーをする際には、自分達で友だちそれぞれの個性を把握した上でグループ分けをし(写真7)、更にグループ毎に共通の目的の達成に向かって、自分達で考え、意見を出し合って相談することができるようになってい

に活動する楽しさを味わう。」も関連して含まれていること、そして領域「環境」のねらい「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。」、内容「季節により自然や人間の生活に変化のこることに気付く。」「自然などの身近な事象に関心をもち、採り入れて遊ぶ。」を関連づけることもできるということを認識しているということである。また、3周マラソン、リレーという活動に伴って、「友だちと力を合わせて活動する楽しさを感じる。」(34)、「お互いが頑張り、認め合うことでカバーし、様々な活動に取り組む」(37)といったねらいに関連し、振り返り、気づいたことの伝え合い、目標達成のために考え相談すること等が様々に行われている(6①9②5③8④3⑤3⑥37)ことから、領域「人間関係」の内容「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。」「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」、領域「言葉」のねらい「自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。」「人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。」、内容「先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。」「したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。」、領域「表現」のねらい「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。」、内容「様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。」等の関連をも考慮に入れ、保育活動を設定していることが窺われる。

保育者が活動の中に含まれる前述のようなねらいや内容の関連を認識し、その認識に基づいて関連のある内容を拡充しながら実施した活動に取り組んだことで、子どもの育ちとしては、以下のようなものがもたらされたものと考えられる。体力が向上し(2)、体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じ(16①9②7④4)、速く走るためのコツを会得できるようになっていることに加え、走ること、未体験のこと、上手くできないこと等に取り組む意欲の生起及び向上も見られる(6①0②2④24③2④1④5)。自分の得意なこと、うまくできないことを把握することで友達の長所に着目し、気づいたことや友達の長所を言葉で伝え合えるようになった育ち(23②5③1④0)、また、例えばリレーでの勝利という共通の目標を達成するために友だちの思いに共感したり友だちを励ましたり協力したり、共に考えたりするという共感性、協同性、思考力の育ちも認められる(28③3⑥38③9④2④3)。そして、それらの育ちは、保育者の指導により実践される活動の場面だけでなく、子ども達だけで自由に活動し、自発的に行動したり発言

したりする場面においても認められることから、より確かな発達もたらされていることも示唆される。これは、特定のねらいが特定の活動のみによって達成されるという認識ではなく、ひとつの活動の中にも複数の領域のねらいや内容が関連して含まれること、ねらいの達成を限られた特定の活動のみによって目指すのではなく、ねらいに関連すると思われる種々の活動を立案、実践し、園生活の様々な活動、場面を通して、つまり総合的な指導を通して達成されたものとも考えられよう。

ただし、本研究において取り上げた事例は、年長児を対象とした3周マラソン、リレーを主とする活動である。幼稚園をはじめとする保育施設には、年長児以外の子どもも在籍しており、多種多様な活動が実施されている。今後、より多くの事例への着目、それらの実践記録の丁寧な分析を通して、今回得られた知見を再確認していくことも必要であると考えられる。

V. まとめ

年長児のリレー、3周マラソンを主とする保育活動を対象とした年長児担任教諭及び観察者による保育実践記録を踏まえ、当該保育活動において、担任教諭が、各領域のねらいや内容が関連して含まれているという認識を持ち、その認識を基に、互いに関連のある内容を拡充した保育活動を新たに立案、実践していることが示された。そのような保育活動に取り組んだ対象者には、当初主なねらいとして挙げられた、走ることに関する、領域「健康」に含まれる育ちのみならず、様々な活動に対する意欲生起及び向上、友だちそれぞれの長所や自分の考えを言葉で伝え合うこと、共通の目標を友だちと共に達成するための共感性、協同性や思考力の生起及び向上といった、領域「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に含まれる育ちが認められた。

引用文献

- 1) 文部科学省：幼稚園教育要領 フレーベル館 2017
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針 フレーベル館 2017
- 3) 内閣府 文部科学省 厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館2017
- 4) 無藤隆 岩立京子：事例で学ぶ保育内容 領域人間関係 萌文書林 2007 31
- 5) 文部科学省：幼稚園教育要領 フレーベル館 2008

SUMMARY

Yuko OHTA,
Satomi NAKAMURA,
Yukari KAKUYA:

The Consideration about the Recognition of Kindergarten Teachers to Grasp
the Relations in Kindergarten Activities
– Focusing on the Activities of Five-year-children in the Kindergarten –

The purpose of this study was to consider the recognition of kindergarten teachers to grasp the relations in kindergarten activities. The activities were a relay and 3-lap-marathon of five-year-children in the kindergarten. It was considered by the records about the activities the teachers and observer wrote. The teachers recognized the relationship of the aims and contents in the categories and practiced the new activities adding some changes. Experiencing them, the children showed not only the growth in the category “Health” concerned with the running but also the willingness to various activities including the activities experiencing plants. Furthermore, the ability to convey the advantages of their friends and their own opinions each other in words, the cooperativity to achieve the common aim with friends, and the ability to think, that they were the growth in category “Human Relations”, “Environment”, “Language” and “Expression”.

(Y. OHTA; Uyo Gakuen College

S.NAKAMURA; Daiho Kindergarten attached to Uyo Gakuen College

Y.KAKUYA; Daiho Kindergarten attached to Uyo Gakuen College)

